アフリカの角における飢餓と干ばつ危機のジェンダーによる影響

「困窮を極めるとき、干ばつ状態の威力に耐えるのは、いつも女の子です」

Sadia Allin、プラン・インターナショナル・ソマリア国統括事務所長

はじめに
行動指針の目的

プラン・インターナショナルは、子どもの権利と女の子の平等を推進する独立した開発・人道団体である。

プランは、危機を打開するための行動を最優先させるために、最高レベルの人道的対応として非常警報を宣言した。非常警報を通じて、プランはソマリア、エチオピア、ケニア、南スーダンにおける飢餓への対応の規模を拡大する。介入によって、食料支給、現金およびバウチャーによる支援、学校給食、水・衛生サービス、栄養不良の診断、栄養補給といった対応策をさらに進める。プランは、生計の保護とそのための支援活動を実施する。

私たちは、すべての子どもの力と可能性を信じている。しかし、それは貧困や暴力、排除や差別によってしばしば抑圧されてしまう。多くの場合、その影響を最も受けるのは女の子だ。私たちは、子どもやユース、支援者、パートナーとともに、女の子やすべての弱い立場に置かれた子どもが直面する課題の根本原因に取り組み、公正な世界の実現に努める。

私たちは、生まれてから大人になるまでの子どもの権利を支援し、子どもが危機や逆境に備え、それに対応できるようにする。私たちは、ネットワークや繋がり　、経験、知識を駆使して、地域、国、世界レベルで実践と政策の変化を促す。

この地域では、インフレやウクライナ紛争の影響とともに、干ばつの影響を受ける人々の数が増加しており、干ばつに関連する人道的懸念に対応するための構造的なアプローチが必要となっている。アフリカの角における干ばつの影響は、生計手段の喪失、食料不足、栄養不良、水不足、疫病、紛争、子ども、特に女の子の中途退学、早すぎる、強制された結婚(CEFM)や性暴力・ジェンダーに基づく暴力（SGBV）といった保護のリスクにつながっている。

この行動指針概要は、エチオピア、南スーダン、ソマリア、ケニアでプランが行った迅速なジェンダー分析から得られた情報と既存の文献を組み合わせ、アフリカの角における飢餓と干ばつ危機のジェンダーによる影響を提示するものである。

エチオピアで栄養状況をチェックするために、Leloの腕のサイズを測る保健師

アフリカの角
国別状況分析

現在のアフリカの角の干ばつと飢餓の状況は、過去40年間で最悪と言われている。エチオピア、南スーダン、ソマリア、ケニアは異なるIPC（Intergrated Food Security Phase Classification：総合的食料安全保障レベル分類）の段階にあり、前例のないレベルの干ばつと飢餓に直面している。

以下の地図は、東アフリカの一部で深刻な急性食料不安が続いていることを示しており、ソマリアの一部では飢饉（IPCフェーズ5）が予測されている。図1では2022年8～9月の地図と、図2[1]では2022年10～12月を示している。

1 East Africa - Key Message Update: Fri, 2022-09-16 | Famine Early Warning Systems Network (fews.net)

図1: 2022年8～9月のアフリカの角における急性食料不安

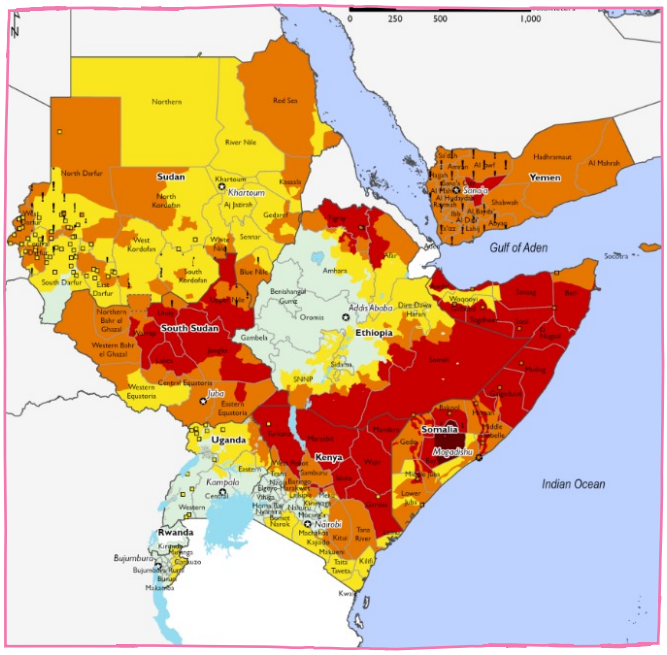
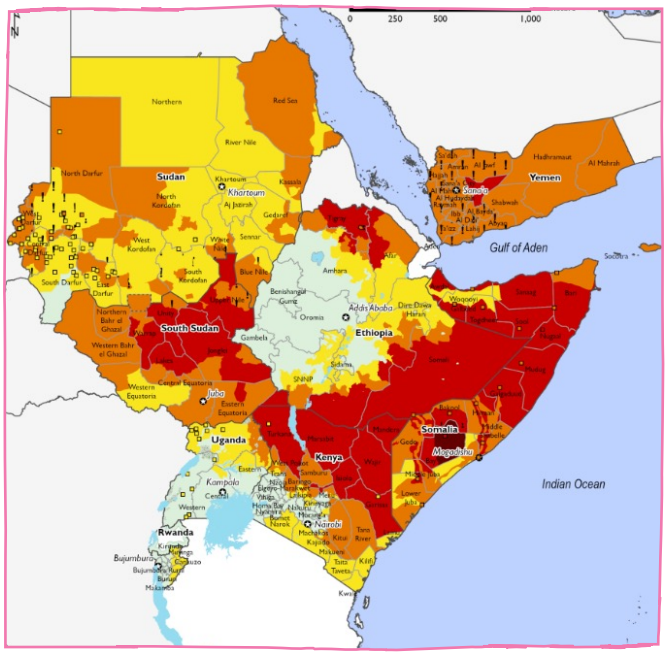


図2:2022年10～12月アフリカの角における急性食料不安



エチオピア

エチオピアはIPCフェーズ3、一部ではIPCフェーズ4であり、この状況は2023年初頭まで続くと予想される。干ばつのため、国の一部では紛争が長期化しており、急性栄養不良や飢餓に関連する死亡率が上昇し続けている。食料消費の不足を埋め合わせるための対応が進められているが、命と生活を守るためには、緊急に援助を拡大する必要がある[2]。

干ばつの影響を受けている人は、全国で810万人いる。このうち、720万人超が重度の食料不安に分類され、440万人が清潔な水を必要としている[3]。18万5000人超の子どもが重度の栄養失調に陥っており、20万6000人の妊娠中および授乳中の女性が急性栄養失調に陥っている[4]。飢餓の結果、28万6000人以上が支援を求めて家を離れた。2000を超える学校が閉鎖され、68万2000人以上の児童・生徒に影響が出ている[5]。

南スーダン

南スーダンは、長引く紛争と洪水などの悪天候の結果、IPC フェーズ4に位置している。4年連続の洪水により、今年も家畜や作物の損失が予想される。IPCフェーズ5となるという、最悪のシナリオも予測されている。2022年10月～2023年1月にかけて、ほとんどの地域で急性食料不安のレベルが更に悪化すると予想され、その間に広範な緊急事態（IPC4）となる可能性がある[6]。

890万人以上が人道支援を必要とし、2018年の700万人から増加。約300万人が緊急の急性食料不安に直面する可能性があると推定され、命を救うために人道支援の即時拡大が必要である。合計280万人の子どもがすでに学校に通っておらず、52%の女の子が18歳までに結婚している[7]。一方、10～14歳の子どものうち46%が児童労働に従事していると推定されている[8]。

ソマリア

ソマリアはIPCフェース4に位置し、ベイ地方の2つの地区で飢饉（IPCフェーズ5）が予測されるほか、IPCフェーズ5にすでに位置する地域がある。ソマリア中央部と南部のいくつかの地域では、2022年12月末まで飢饉のリスクが高まっている。人道的対応により、食料安全保障と栄養状態の悪化は防がれている。ソマリアは依然として高いリスクを抱えており、食料支援が拡大・継続されなければ、状況はさらに悪化するだろう。持続的な干ばつは、ソマリアの大部分で2023年1～3月のジラール乾期に人道的ニーズのレベルを高めると予測される[9]。

2 Ethiopia | Famine Early Warning Systems Network (fews.net)

3 The United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs (OCHA), “Ethiopia: Situation Report,” 19 September 2022, https://reports.unocha.org/en/country/ethiopia
4 https://www.humanitarianresponse.info/sites/www.humanitarianresponse.info/files/documents/files/ethiopia_drought_update_3_june_2022.pdf
5 KII from DRCM Ethiopia RGA Report
6 South Sudan | Famine Early Warning Systems Network (fews.net)
7 UNICEF Report
8 Borgen Project report
9 Somalia | Famine Early Warning Systems Network (fews.net)

現在、人口の50%近くにあたる710万人が、危機的なレベルの食糧不安、あるいはそれ以上の事態に直面している。そのうち、21万3000人がIPCフェーズ5に分類され、壊滅的な飢餓に直面していることを意味している[10]。

2021年10月現在、干ばつにより80万5000人超の人びとが食料や水、またはその両方を求めて家を離れることを余儀なくされている[11]。

「水不足のため、お風呂に入るのは1週間に1回です。これは不衛生であり、健康上の問題を引き起こす可能性があります。今年は、ガンゼ副郡のすべての女の子にとって、これまでで最も過酷な年です。水と食料がないため、飢えをしのぎ、生理用品を買うために性行為に走る女の子もいます」

15歳、ケニア

10 https://reliefweb.int/report/somalia/somalia-drought-response-and-famine-prevention-situation-report-no-8-30-june-2022

11 https://www.wfp.org/news/rains-fail-again-catastrophic-hunger-looms-over-somalia#:~:text=Mogadishu%20%E2%80%93%20A%20historic%20fourth%20consecutive,starvation%20and%20disease%20in%20Somalia

ケニアはIPCフェーズ3に属し、一部の郡はIPCフェーズ4に属している。ケニア全土で、4年連続の雨期に経験した干ばつ状態の影響により、急性食料不安が高まり続けている。こうした状況は、作物や家畜の生産に影響を与え、高インフレを引き起こした。その結果、都市部では賃金が低迷し、農村部では収入を得る機会が減少しているため、貧困世帯の間で食料へのアクセスが制限されている。食料安全保障の状況は、2023年まで悪化するだろう[12]。

緊急事態にある人びと（IPCフェーズ4）は110万人であり、推定300万2000人が危機的状況にあり、合計508万8000人がストレスを受け、596万2000人が食料を確保（IPCフェーズ1）している。6～59カ月の子ども94万2500人超、妊娠中または授乳中の女性13万4000人が急性栄養失調の治療を必要としている。

干ばつが女子教育に与える影響

干ばつによる飢餓を含む危機の際には、既存の不平等なジェンダー規範がより一層強化される。分析によると、労働の負担増や早すぎる結婚のため、男の子よりも女の子の方が学校を中途退学している。ケニアでは、食料不足のために中途退学を余儀なくされた女の子、食料や商品を購入するための金銭を目的とした性交渉、10代の妊娠の事例の増加が報告されている。

「私のクラスには、女の子が一人もいません。彼女たちは結婚しているか、家にいるかのどちらかです。家事全般をこなすのは女の子なので、この仕事をこなしながら授業に参加するのは難しく、家事をこなすために学校を中途退学することを選ぶのです」

教師、タナリバー郡、ケニア

政府間開発援助機構・気候予測応用センターによる最新の予測では、地域全体で5年連続で雨期を逃すとしている。かなりの数の思春期の女の子が学校から中途退学する可能性があり、ジェンダーに基づく暴力(GBV)、ネグレクト、搾取、児童労働、虐待のリスクは増加するだろう。

子ども、女の子、女性への危機の影響

エチオピア、ケニア、ソマリア、南スーダンで、干ばつと飢餓が女の子、女性、男の子、男性に与える影響を特定し理解するために、迅速なジェンダー分析が行われた。女の子と女性の経験は、人道的対応に情報を提供するための能力だけでなく、彼女らの独自のニーズを特定するために優先的に扱われた。以下のセッションで示されるように、分析を通じて、干ばつの状況と既存のジェンダーによる社会文化的規範が、女の子と女性をより脆弱な立場に置いていることが大きく指摘された。

ソマリアでは、成人の回答者の12%が、女の子に押し付ける一方で、女の子よりも男の子を優先して教育を受けさせることを認めている。南スーダンのルンベクでは、管理職の女性教師が、女の子が学校に通えないのは女の子にやさしい環境がないためだと述べている。

「何も食べていないと、授業中、勉強に集中できません。字を書くのも、先生が言っていることに注意を払うのも難しいんです」

Grace、12歳、南スーダン、ルンベク

12 Kenya | Famine Early Warning Systems Network (fews.net)

干ばつがGBVに与える影響

緊急時の資源の不足は緊張を生み、主に女の子と女性に対するSGBVのリスクを高める[13]。暴力の根本的な原因は、ジェンダーに基づく差別や不平等な力関係を促進・容認する態度、信念、規範、構造と関連している[14]。干ばつや生活の糧の喪失に直面すると、女の子や若い女性の保護を任されている人が、彼女たちの生活や幸福を危険にさらす可能性がある。絶望から、両親や保護者が女の子を早すぎる結婚、女性器切除、性労働、搾取、児童労働などの有害な行為に追いやるかもしれない。これらのリスクは、すべての対象国で確認された。調査結果から、CEFMが、貧困、食料不安、女の子の家族の経済状況と密接に関連していることが示された。ソマリランドのスール、サナグ、トグディール地域の結果は、SGBV被害者の48%が医療福祉などのサービスを利用できていない。サービスが利用できると報告した人（52%）については、医療へのアクセス（73%）、法的サービス（52%）、トラウマのカウンセリング（33%）、紹介（23%）、ケースマネジメント（26%）が、最も一般的な利用可能サービスであるとした。南スーダンのルンベクでは、13～17歳の就学中の子どもの教育へのアクセスを見ると、女性の52%が学校に通っていない女の子を知っており、男の子は9%だった。この年齢層で学校に通っていない女の子を知っているのは、男性の約79%で、男の子ではわずか4%であった。

「特に、14～17歳の路上で生活する思春期の女の子は、SGBV、虐待、搾取、人身売買の危険にさらされています。学校の閉鎖も、この地域のSGBVの件数を増加させています」

インタビューに回答してくれた人、エチオピア

干ばつが女の子の性と生殖に関する健康と権利(SRHR) に与える影響

深刻な飢餓のため、ケニア、ソマリア、エチオピア、南スーダンの飢餓の影響を受けている地域の多くでは、公的機関におけるSRHRに関する教育やサービスの持続的提供が優先されなくなっている。

家庭レベルでの消費意欲が低下しているため、食料の購入が優先される。女性や女の子の健康や衛生に影響を与え避妊具や月経衛生用品、下着の購入は後回しにされている。エチオピアのグンビ・ボルデデの女性は、保健所や保健センターまでの距離があるため、母子保健、性や生殖に関する保健サービスへのアクセスが制限されていると述べた。保健サービスへのアクセスはできているように見え、82%の回答者がアクセス可能な保健サービスを利用できると回答している。ソマリランドでは、保健サービスを受けられない主な理由として、経済的制約（81%）、女性スタッフの不足（17%）が挙げられている。分析から、ケニアのキリフィでは、思春期の女の子や若い女性が生理用品や衛生用品を買う余裕がないことが明らかになった。

「母親としては、マットレスが内側から『食べられている』ことに気づき、どうしたものかと思いましたが、娘たちを問い詰めると、毎月の生理のために使っていると告白されました」

村落貯蓄貸付グループ のメンバーである母親

水源まで1時間以上かけて歩くMotie Mulu（16歳、エチオピア）。

13 Mainstreaming GBV in Humanitarian Action in Somalia. IASC GBV Working Group report

14 IASC (Inter-agency Standing Committee), 2015a. Guidelines for Integrating Gender-Based Violence Interventions in Humanitarian Action: Reducing risk, promoting resilience and aiding recovery.

危機への対応

南スーダンでの食料支給訓練中のプラン職員、Mary。

干ばつ状況に対するプランの対応は、対象4カ国で最も影響を受けているコミュニティにおいて、人命を救い、食料不安を軽減し、サービスへのアクセスを向上させることを目的としている。プランは、各国の優先順位に沿って、最も緊急に食料を必要としている人びとに、命を救うための支援を迅速に提供してきた。プランは、ジェンダー平等と子どもの権利を推進し、女の子の平等を強化するために、食料不安危機やその他、保護に関わる危険の際に女の子に悪影響を与える生存戦略について警鐘を鳴らしている。コミュニティの生計手段を守り、早期復旧活動の強化を通じてコミュニティのレジリエンス（回復力）を高めるため、危機に対する私たちの対応は以下のことに重点を置いている；

生計、食料、栄養、健康

プランは、多目的に利用可能な現金給付支援を通じて、食料や栄養物資へのアクセスを強化し、脆弱なコミュニティのレジリエンス（回復力）を高めている。この支援は、最も脆弱な世帯と国内避難民(IDP)を優先している。政府の栄養チームとの継続的な協力は、急性栄養失調のアウトリーチプログラムの統合的な管理を提供する。外来治療プログラムや補食プログラムに参加している子どもの保護を強化するため、家庭レベルでの栄養価の高い食品の消費を促進するための食料バウチャーが配布された。

セーフガーディングと性的搾取、虐待からの保護（PSEA）

プランは、暴力、搾取、虐待の高まるリスクに対処するため、緊急下のGBVプログラミングのための国際的な最低基準を用いながら、意識啓発に焦点を当てた。スタッフやボランティアは、ジェンダー、GBV予防、セーフガーディング、性的搾取、虐待からの保護　が国レベル、現場レベルのすべてのプロジェクト活動で主流化させるために、これらに関するトレーニングを受けている。

教育

プランは、参加型教育法、学級運営、心理社会的支援について、教員や校長を訓練した。地域教育委員会の能力開発をした。有害な慣習をなくし、子どもの保護を強化するために、最も影響を受けたコミュニティで啓発キャンペーンや能力開発が実施されている。

学校の水衛生

プランは、脆弱な世帯、IDP、被災したホスト・コミュニティに生理用品を含む衛生キットを配布している。また、学校、保健所、コミュニティセンターなど、IDPの状況における水衛生施設の建設と修復も進行している。

「私は11年生の高校生でしたが、ひどい干ばつで学校を辞めなければなりませんでした。私の家族は牛を50頭飼っていたのですが、干ばつですべての牛が死んでしまいました。母は、牛乳などの乳製品を売って、ノートや鉛筆などの学用品を買ってくれていました。牛がいないと、食べ物を探すのがずっと大変なんです」

Motie Mulu、エチオピア

保護- 緊急下における子どもの保護（CPi E）、GVB、SRHR

プランは、子ども保護委員会を通じて、コミュニティの子どもの保護メカニズムを強化している。リスクにさらされている子どもや虐待や搾取の被害者、障害のある子どものための通報機能とケースマネジメントを提供する。これには、他のサービスへの照会や金銭やバウチャーによる支援も含まれる。プランは、コミュニティにおけるリスクと危険の特定と分析、災害軽減計画の策定と実施によって、子どもとユースが「子ども中心の災害リスク軽減」介入に関与できるように能力を強化した。

「ほとんどの女の子は、お母さんに頼まれて家にいるしかないのです。でも、男の子はそうではなく、頼まれても断ることができます。女の子は家にいることを断り、「私は学校に行きたい」と自己主張ができないのです」

Sarah、13歳、南スーダン

ソマリアでのコミュニティ提唱活動中のMulkiとその友人。

女の子と若い女性の特別な課題

- 子ども、思春期の若者、若い女性のSRHRのニーズを軽視することは、意図しない早すぎる妊娠とそれに伴うリスク、強制された早すぎる結婚（CEFMU）、性感染症、心理的トラウマなど、深刻な結果をもたらす。2022年には、エチオピアの17の地区から192件の早すぎる結婚　が報告され、飢餓や干ばつから生きていく術として結婚を考える若い女の子もいる。
- 女の子や女性は、食事を準備するために必要な水や燃料を集める際、性暴力の高いリスクに直面する。食料配布中も含め、安全の仕組みがないために、さらなるリスクが発生する可能性がある。SGBVの発生件数は、特にソマリランドのスールとサナグで34%増加していると報告されている。

- 食料が不足すると、家族は生き残るために良くない対処法に頼ることが多くなる。思春期の女の子にとって、これはしばしば、CEFMのリスクと、それに伴う早すぎる妊娠のリスクが高まることを意味する。

- 妊娠中や授乳中の女性、思春期の若者、5歳未満は、成長速度が速く、乳児の体も変化するため、特に栄養不良に対して脆弱である。幼児期や思春期に栄養価の高い食品を入手できない場合、子どもの成長を阻害し、脳の発達に大きな影響を与え、就学レディネス、教育到達度、健康、経済的成果を損なうことになる。また、思春期の女の子は月経により鉄分の必要量が増え、妊娠中は特に栄養不良のリスクにさらされる。ソマリランドの回答者は、大半の世帯（61%）が過去30日間に人道的支援を受けなかったと回答し、男の子の64%、女の子の46%が過去30日間に自身の世帯が支援を受けなかったと報告している。

- 栄養不良は、思春期の女の子や妊娠中、授乳中の女性に特に脅威を与え、流産や妊産婦死亡のリスク、子どもの死産、新生児の死亡、低体重、発育阻害のリスクを高め、栄養不良の世代間サイクルにつながる。エチオピアのガンビ・ボルドーデ地区とグバ・コリチャ地区の女性は、人道支援から得られる食料は、3カ月の間に一世帯・一人あたり15kgの穀物であるため、家族を適切に養うには十分ではない、と述べている。

- 家族が食料難に直面する中、女の子は、両親が働いたり食料を探すためにきょうだいの世話をすることを求められることが増え、学校を休んだり中途退学することを強いられる。その結果、**女の子への教育優先されなくなり、教育におけるジェンダー格差が広がる恐れがある**。ケニアのアギリアマコミュニティの女性は、避妊具の使用について、夫の同意を得なければいけない。その結果、11人近い大家族となり、少ない食料を圧迫している。

「だんだん辛くなってきました。家畜からミルクが出ないというのは、私たちにとっても辛いことです。死んでしまった動物もいれば、弱ってミルクを出せない動物もいます。干ばつはますますひどくなるばかりです」

Said Sado、ソマリア。

政府、ドナー、その他の人道支援関係者のための行動喚起

プランは、支援に向けた協力的なアプローチと、長期的な解決策を特定するための関係者の有意義な関与の重要性を高く評価している。プランは、以下の行動を提案する。

- 特にアフリカの角のソマリアのような紛争地域で、食料安全保障、栄養、水、危機下での女子教育、女の子と女性の性と生殖の健康を優先して、人命を救うために自由なアクセスを拡大すること。

- 子どもや女性が世帯主である家族、幼い子どものいる家族、避難民など、最も影響を受ける家族のために、ジェンダーに対応した無条件の社会保護と所得支援策を強化し、拡大することを政府に主張するとともに支援すること。

- 栄養、保健、衛生、子どもの発達のための養育、家族およびコミュニティに対するジェンダー平等の情報とッセージの組み合わせを通じて、人道支援関係者が国レベルの支援を補完できるような環境を整備すること。

- 女の子と若い女性がショックから身を守ることができるよう、緊急に現金支給するために、適切でタイムリーかつ柔軟な資金を提供すること。
- 飢餓の影響を受けている人たち、特に女の子や女性のさまざまなニーズや課題に対処するための、多分野的かつ交差的なアプローチを採用すること。
- ジェンダー・トランスフォーマティブな支援 (性別・年齢別データ、設計実施、評価) をするために、確実にジェンダー分析を実施すること。
- 子どもや思春期の若者の重要なニーズを理解するために、彼らがプログラミングに参加し、彼らからの助言を受け付ける機会を設けること。
- 干ばつに対処するための復興と回復のための取り組みを設計すること。

「2020年11月にこの地域で貴重な雨が降ったのが最後です。、その結果、水たまり や貯水池がすべて干上がってしまいました。政府をはじめとする支援者の方がたに、助けを求めています。。私たちは水しか求めていませんが、それさえも届けられていません。」

Yakub、コティチャ小学校の教員、ケニア。

12 歳のJuweeriyaは、ソマリアのトグダイヤ地域にある学校の児童。空腹で登校することもあるという。